

# 夏秋ギク「精の一世」の需要期における密植栽培の検討

～市場ニーズに応えるため、密植栽培で収量・売上向上を目指す～

東野照代（尾張農林水産事務所農業改良普及課稲沢駐在室）

【平成27年7月15日掲載】

## 【要約】

9月の彼岸は輪ギクの予約相対販売の需要が多い時期の一つで、特に仏花の花筒に入りやすいLサイズ以下の規格品が好まれる。しかし、夏秋タイプの白輪ギクにおいて栽培が多い「精の一世」は茎が太くなりやすいため、2Lサイズの割合が高く要望に応えるのが難しい。

そこで、Lサイズ以下の規格品が多くなるような栽培方法を検討したところ、栽植密度を従来の3.3㎡当たり135本定植から155本定植に増やすことにより、LMSサイズの出荷数量を増やすことができるだけでなく、合計出荷本数も増え、収益も増えることが分かった。

## 1 はじめに

当管内の輪ギク共選部会は、平成24年度から需要期の出荷数量・販売価格を市場と事前に取り決める「予約相対販売」を開始した。需要期の一つである9月の彼岸に出荷される白色輪ギク「精の一世」は茎が太くなりやすく、出荷量の約7～8割が2Lサイズの規格品で占められる。しかし、この時期の予約相対販売では2Lサイズではなく、お墓参り用の花筒に入りやすいLサイズ以下の規格品が求められている。

そこで、密植栽培を行うことでLサイズ以下の太すぎない規格品を多くしたいと考え、その効果を明らかにするとともに収益性について調査した。

## 2 試験区の構成と調査方法

- (1) 施設概要 : ビニルハウス（間口6m×36m×3連棟）計648㎡
- (2) 栽培方法 : 無摘心栽培
- (3) 栽培概要 : 5月26日直挿し、7月14日消灯、8月27日～9月3日出荷
- (4) 試験区の設定 : 展示区 155本/3.3㎡定植  
慣行区 135本/3.3㎡定植
- (5) 試験規模 : 各区30㎡（ただし、収量調査は各区2.2㎡）

生育調査は、消灯時・収穫時に各区10本当たりの草丈および茎径を測定した。収量調査は、各試験区において市場出荷における適正な収穫時期に採花し、草丈を90cmに調整した後、重量・曲がりの有無を調査した。

## 3 結果

### (1) 生育調査

草丈は消灯時・収穫時ともに展示区の方がやや長かった。茎径は消灯時は両区に差

は見られなかったが、収穫時には展示区の方が慣行区よりも細かった（表1）。

表1 消灯時・収穫時の草丈と茎径

	草丈 (cm)		茎径 (mm)	
	消灯時	収穫時	消灯時	収穫時
展示区	80.8	109.8	6.0	6.7
慣行区	76.7	104.9	6.0	7.5

消灯時（7月24日） 収穫時（8月27日）に各区10本を調査



写真1 消灯時の状況  
（右展示区、左慣行区）

## （2）収量調査

展示区・慣行区ともに、曲がりや病虫害等の規格外品はほとんど見られなかったため、栽植密度の増加に伴い、慣行区の合計出荷本数（規格内の本数）が134本であったのに対して、展示区では155本と増加した。3.3㎡当たりの階級別採花本数を比較すると、LMSクラスの出荷本数は慣行区が25本であったのに対し、展示区は56本と、31本増加した（図1）。

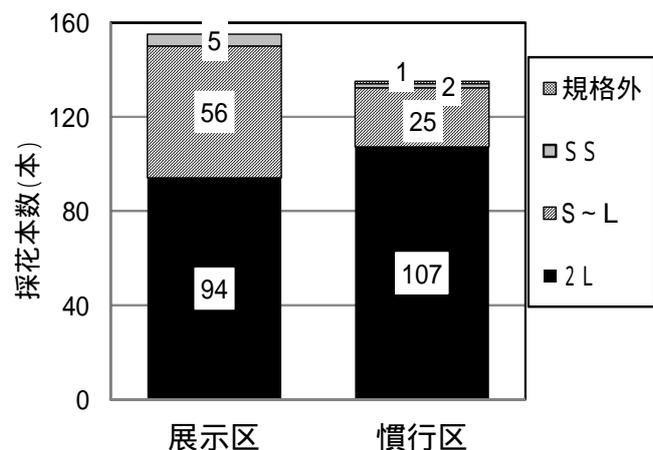


図1 階級別採花本数の比較

## （3）経済性調査

需要期における階級別の単価をもとに、3.3㎡当たりの販売金額を計算すると、展示区は13,255円、慣行区は12,050円となった。

また、栽植密度が増えることにより変動する経費として、3.3㎡当たりの種苗費と出荷経費を計算した。種苗費は、展示区が1,240円、慣行区が1,080円となった。出荷経費は、展示区が396円、慣行区が351円となった。

よって、3.3㎡当たりの利益（販売金額 - （種苗費 + 出荷経費））は、栽植密度を135本から155本に増やすことにより1,000円増加した（表2）。

表2 3.3㎡当たりの経済性調査および10a当たり利益試算（単位：円）

	販売金額	種苗費	出荷経費	利益	利益差額	10a当たり試算
展示区	13,255	1,240	396	11,619	1,000	303,030
慣行区	12,050	1,080	351	10,619		

## 4 考察

### （1）収量・品質への影響

「精の一世」は茎が太くなりやすくLMSサイズの規格品が少ない品種であるが、3.3㎡当たりの栽植密度を従来の135本から155本に増やすことにより、市場が求めるLMSサイズの比率を高められることが明らかになった。予約相対販売において市場の要望に応え、

産地の信頼性を高めるためにも有効な手法であると考えられる。

ただし、密植栽培により風通しが悪くなり病害虫の発生が増える可能性があるので、適期かつ丁寧に防除を行う必要がある。

## ( 2 ) 収益への影響

栽植密度が増加することにより増えた経費を差し引いた利益は、3.3㎡当たり千円であり、10aあたりに換算すると利益は30,3千円と試算される。

密植栽培により定植、芽欠き、出荷調整の労力が増えるものの、Lサイズ以下の規格品が増えて市場の要望に応えられるだけでなく、合計出荷本数が増え、収益も増加することから、その利点は大きいと考えられる。